

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論Ⅱ		歯科衛生士学科/2年	2020/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	3単位(90時間)	必須	藤本 希実子
授業の概要				
1年次での基礎学習を踏まえ、対象の把握法・会話法・伝達法の基本を理解し、歯科保健指導で使用する各種媒体の作成要領や活用法を学び、それぞれのライフステージにあった歯科保健指導を体感することにより、歯科衛生士としての役割や職業に対する責任や使命感を認識してもらう。				
授業終了時の到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各ライフステージの一般的特徴、口腔の特徴、望ましい歯科保健行動を説明できる。 2. 各ライフステージにおけるプロフェッショナルケアとセルフケアの歯科保健の目標を説明できる。 3. 各ライフステージの特徴に合った必要な栄養素とその摂取基準を説明できる。 4. 各ライフステージの食生活指導を実施できる。 5. 各ライフステージの歯科保健指導を実施できる。 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		歯科衛生士として臨床現場で6年の実務経験 介護支援専門員、介護職員として福祉現場で6年の実務経験 これまでの臨床現場や介護現場での場面を活かし歯科保健指導の実践に役立てる		
時間外に必要な学修				
次回の授業内容を踏まえてテキストを予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	幼児対象集団歯科保健指導の準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団歯科保健指導案の作成 2. 媒体物の作成 3. 発表練習 		
2	幼児対象集団歯科保健指導の準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団歯科保健指導案の作成 2. 媒体物の作成 3. 発表練習 		
3	幼児対象集団歯科保健指導の準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団歯科保健指導案の作成 2. 媒体物の作成 3. 発表練習 		
4	幼児対象集団歯科保健指導の準備 臨地(保育)実習の準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団指導発表練習 2. 歯みがき指導案の作成 3. 媒体、お土産作成 		
5	幼児対象集団歯科保健指導の準備 臨地(保育)実習の準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団指導発表練習 2. 歯みがき指導案の作成 3. 媒体、お土産作成 		
6	幼児対象集団歯科保健指導の準備 臨地(保育)実習の準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団指導発表練習 2. 歯みがき指導案の作成 3. 媒体、お土産作成 		
7	幼児対象集団歯科保健指導の準備 臨地(保育)実習の準備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 集団指導発表練習 2. 歯みがき指導案の作成 3. 媒体、お土産作成 		
8	臨地(保育)実習振り返り	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育園の場の理解 2. 幼児との関わり方 3. 保育実習を通して歯科衛生士として活かしていくこと 4. 所感 		

回	テ ー マ	内 容
9	ライフステージにおける歯科衛生介入 妊産婦期	妊産婦期 1. 妊産婦期の一般的特徴 2. 妊産婦期の口腔の特徴 3. 妊産婦期の歯科保健指導 4. 妊産婦期の栄養 5. 妊産婦期の食事摂取基準 6. 妊産婦期の食生活指導
10	ライフステージにおける歯科衛生介入 新生児期・乳児期	新生児期・乳児期 1. 新生児期・乳児期の一般的特徴 2. 新生児期・乳児期の口腔の特徴 3. 新生児期・乳児期の歯科保健指導 4. 新生児期・乳児期の栄養 5. 離乳までの栄養摂取 6. 新生児期・乳児期の食事摂取基準 7. 離乳期の食生活指導
11	ライフステージにおける歯科衛生介入 新生児期・乳児期	新生児期・乳児期 1. 新生児期・乳児期の一般的特徴 2. 新生児期・乳児期の口腔の特徴 3. 新生児期・乳児期の歯科保健指導 4. 新生児期・乳児期の栄養 5. 離乳までの栄養摂取 6. 新生児期・乳児期の食事摂取基準 7. 離乳期の食生活指導
12	ライフステージにおける歯科衛生介入 幼児期	幼児期 1. 幼児期の一般的特徴 2. 幼児期の口腔の特徴 3. 幼児期の歯科保健指導 4. 幼児期の食生活の特徴と栄養 5. 間食 6. 幼児期の食事摂取基準 7. 幼児期の食生活指導
13	ライフステージにおける歯科衛生介入 幼児期	幼児期 1. 幼児期の一般的特徴 2. 幼児期の口腔の特徴 3. 幼児期の歯科保健指導 4. 幼児期の食生活の特徴と栄養 5. 間食 6. 幼児期の食事摂取基準 7. 幼児期の食生活指導
14	ライフステージにおける歯科衛生介入 学齢期	学齢期 1. 学齢期の一般的特徴 2. 学齢期の口腔の特徴 3. 学齢期の歯科保健指導 4. 学齢期の食生活の特徴と栄養 5. 学齢期における食育の重要性 6. 学齢期の食事摂取基準 7. 学齢期の食生活指導
15	ライフステージにおける歯科衛生介入 学齢期	学齢期 1. 学齢期の一般的特徴 2. 学齢期の口腔の特徴 3. 学齢期の歯科保健指導 4. 学齢期の食生活の特徴と栄養 5. 学齢期における食育の重要性 6. 学齢期の食事摂取基準 7. 学齢期の食生活指導

回	テーマ	内容
16	ライフステージにおける歯科衛生介入 青年期	青年期 1. 青年期の一般的特徴 2. 青年期の口腔の特徴 3. 青年期の歯科保健指導 4. 青年期の食生活の特徴と栄養 5. 青年期の食事摂取基準 6. 青年期の食生活指導
17	ライフステージにおける歯科衛生介入 成人期	成人期 1. 成人期の一般的特徴 2. 成人期の口腔の特徴 3. 成人期の歯科保健指導 4. 成人期の食生活の特徴と栄養 5. 肥満と生活習慣病 6. 成人期の食事摂取基準 7. 成人期の食生活指導
18	ライフステージにおける歯科衛生介入 老年期	老年期 1. 老年期の一般的特徴 2. 老年期の口腔の特徴 3. 老年期の歯科保健指導 4. 老年期の食生活の特徴と栄養 5. 老年期の食事摂取基準 6. 老年期の食生活指導
19	ライフステージにおける歯科衛生介入 老年期	老年期 1. 老年期の一般的特徴 2. 老年期の口腔の特徴 3. 老年期の歯科保健指導 4. 老年期の食生活の特徴と栄養 5. 老年期の食事摂取基準 6. 老年期の食生活指導
20	ライフステージにおける歯科衛生介入 要介護高齢者	要介護高齢者 1. 要介護高齢者の一般的特徴 2. 要介護高齢者の口腔の特徴 3. 要介護高齢者の歯科保健指導 4. 要介護高齢者の食生活の特徴と栄養 5. 要介護高齢者の食生活指導
21	ライフステージにおける歯科衛生介入 要介護高齢者	要介護高齢者 1. 要介護高齢者の一般的特徴 2. 要介護高齢者の口腔の特徴 3. 要介護高齢者の歯科保健指導 4. 要介護高齢者の食生活の特徴と栄養 5. 要介護高齢者の食生活指導
22	ライフステージにおける歯科衛生介入 障害者 大規模災害被災者	障害児者 1. 障害児者の一般的特徴 2. 障害児者の口腔の特徴 3. 障害児者の歯科衛生介入 4. 障害児者の食生活の特徴と栄養 大規模災害被災者 1. 災害と避難施設 2. 災害時の歯科保健医療 3. 歯科保健医療のためのアセスメントと支援活動 4. 災害時の多職種連携について
23	ライフステージ別歯科衛生介入 確認テスト	確認テスト・まとめ
24	スポンジブラシ(講義と実習)	スポンジブラシの使用方法和注意点

回	テーマ	内容
25	口腔機能管理に関わる指導 生活習慣の指導	1. 口腔機能の発達に関連する指導 2. 口腔機能の低下に関連する指導 3. 非感染性疾患 (NCDs)
26	喫煙者に対する指導	1. 日本人の喫煙状況 2. 喫煙状況のアセスメント 3. 禁煙ステージのアセスメントと禁煙支援のポイント 4. 禁煙治療 5. 健診・保健指導での禁煙支援の取り組み
27	ストレスマネジメント	1. ストレッサー 2. 認知的評価・対処能力 3. ストレス反応に対する対処
28	地域歯科保健活動における健康教育	1. 健康教育の概要 2. 健康教育の進め方 3. 健康教育の方法 4. 健康教育の評価
29	地域歯科保健活動における健康教育	1. 健康教育の概要 2. 健康教育の進め方 3. 健康教育の方法 4. 健康教育の評価
30	臨地(介護)実習事前準備	1. 摂食嚥下過程について 2. 嚥下障害における問題点 3. 誤嚥性肺炎について 4. 高齢者における食事 5. 口腔体操プログラム
31	臨地(介護)実習事前準備	1. 摂食嚥下過程について 2. 嚥下障害における問題点 3. 誤嚥性肺炎について 4. 高齢者における食事 5. 口腔体操プログラム
32	臨地(介護)実習事前準備	1. 摂食嚥下過程について 2. 嚥下障害における問題点 3. 誤嚥性肺炎について 4. 高齢者における食事 5. 口腔体操プログラム
33	臨地(介護)実習事前準備	1. 摂食嚥下過程について 2. 嚥下障害における問題点 3. 誤嚥性肺炎について 4. 高齢者における食事 5. 口腔体操プログラム
34	対象の把握	1. 対象の把握 2. 伝達方法 3. 業務記録
35	地域歯科保健活動のフィールド	1. 保育園・幼稚園 2. 学校 3. 事業所 4. 保健所・保健センター 5. 地域・病院・施設

回	テーマ	内 容		
36	地域歯科保健活動のフィールド	1. 保育園・幼稚園 2. 学校 3. 事業所 4. 保健所・保健センター 5. 地域・病院・施設		
37	地域歯科保健活動のフィールド	1. 保育園・幼稚園 2. 学校 3. 事業所 4. 保健所・保健センター 5. 地域・病院・施設		
38	3年次：活動の場の見学準備	1. 保健センター 2. 発達障害児施設 3. 病院・介護施設		
39	3年次：活動の場の見学準備	1. 保健センター 2. 発達障害児施設 3. 病院・介護施設		
40	3年次：活動の場の見学準備	1. 保健センター 2. 発達障害児施設 3. 病院・介護施設		
41	3年次：活動の場の見学準備	1. 保健センター 2. 発達障害児施設 3. 病院・介護施設		
42	3年次：活動の場の見学準備	1. 保健センター 2. 発達障害児施設 3. 病院・介護施設		
43	2年次：総まとめ	まとめ・復習		
44	確認テスト	確認テスト		
45	確認テスト問題解説	確認テスト問題解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新歯科衛生士教本歯科予防処置論・歯科保健指導論		期末試験 出席率 授業態度	80.0% 10.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	
歯科診療補助論Ⅱ		歯科衛生士学科/2年	2020/通年	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	45回	3単位(90時間)	必須	四

授業の概要

臨床歯科医学に相当するさまざまな治療に対するアシスタントワークを学ぶ。
円滑なチーム医療を実現するための診療の補助について学ぶ。

授業終了時の到達目標

1. ラバーダム防湿の目的と器具の用途について説明できる。
2. ラバーダム防湿を実施できる。
3. 歯肉圧排法と手順について説明できる。
4. 仮封材や仮着材の特徴、種類、用途を説明できる。
5. 仮封材や仮着材の練和と余剰セメントの除去を実施できる。
6. ワックスの特徴、種類、用途を説明できる。
7. 歯間分離法と目的について説明できる。
8. 隔壁法と手順を説明できる。
9. 暫間被覆冠の目的と作製の手順を説明できる。
10. 暫間被覆冠を作製できる。
11. 各治療の特徴を説明できる。
12. 各治療の手順に沿った器材を準備することができる。

実務経験有無	実務経験内容
有	歯科衛生士として14年の実務経験 これまでの臨床におけるさまざまな治療に対するアシスタントワーク 面を教材として、診療の補助の知識と技術を指導する。

時間外に必要な学修

【準備学習】

次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。

回	テーマ	内容
1	臨床実習前の確認	治療の流れと診療の補助
2	臨床実習前の確認	印象採得 セメント練和等
3	ワックス	1. 基礎知識 2. ワックスの種類と用途
4	歯間分離	1. 歯間分離の目的 2. 欠点 3. 器具の名称と用途 4. 手順
5~ 6	隔壁法	1. 基礎知識 2. 種類 3. 手順 4. タッフルマイヤー型リテーナーによる
7	歯肉圧排	1. 基礎知識 2. 歯肉圧排(排除)用薬剤の種類 3. 歯肉圧排糸による歯肉圧排の手順 4. その他の歯肉圧排用材料

8～ 10	仮封・仮着の補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎知識 2. 仮封材・仮着材の種類 3. セメント系の取り扱い 4. 水硬性仮封材の取り扱い 5. 仮封用軟質レジンの取り扱い 6. テンポラリーストッピングの取り扱い 7. サンドラックバーニッシュの取り扱い
11～ 12	ラバーダム防湿	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 2. 利点・欠点 3. 器具の名称と用途 4. 手順 5. 臨床におけるケース
13	暫間被覆冠	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的 2. 準備物 3. 手順 4. 患者指導
14～ 15	暫間被覆冠	既製レジン冠を使用する方法
16～ 18	暫間被覆冠	直接法（即時重合レジン圧接法）
19	共同動作実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 術者・補助者・患者のポジショニング 2. ライティング 3. フォーハンデッドデンティストリー 4. 器具の受け渡し 5. バキュームテクニック 6. スリーウェイシリンジテクニック
20～ 21	保存修復時の診療補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保存修復治療と診療補助の特徴 2. 保存修復治療の例と診療補助の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) 直接修復 2) 間接修復 3) 漂白法
22～ 23	歯内療法時の診療補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯内療法と診療補助の特徴 2. 歯内療法の例と診療補助の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) 歯髄処置（麻酔抜髄法） 2) 根管処置（根管充?）
24	確認テスト	確認テスト
25	印象採得・咬合採得	寒天印象採得の補助 咬合採得（ワックス）
26～ 27	歯周外科治療の診療補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周外科治療と診療補助の特徴 2. 歯周外科治療の例と診療補助の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) 歯周外科治療時の業務 2) フラップ手術
28～ 32	補綴治療時の診療補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 補綴治療の例と診療補助の特徴 2. 補綴治療の例と診療補助の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) 遊離端部分床義歯 2) クラウン・ブリッジ 3) インプラント

33～ 34	口腔外科治療時の診療補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 口腔外科治療と診療補助の特徴 2. 口腔外科治療の例と診療補助の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) 抜歯時の業務 2) 普通抜歯 3) 難抜歯 	
35～ 36	歯科麻酔時の診療補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科麻酔時の診療補助の特徴 2. 局所麻酔の基礎的知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疼痛・反射の抑制法 2) 局所麻酔薬の種類 3) 局所麻酔の適応と使用方法 4) 使用時の注意事項 3. 局所麻酔の例と診療補助の流れ 4. 吸入鎮静・静脈内鎮静の例と診療補助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神鎮静法の概要 2) 吸入鎮静の例 3) 静脈内鎮静の例 5. 全身麻酔での診療補助の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) 全身麻酔の概要 2) 全身麻酔の流れ 	
37～ 41	矯正治療時の診療補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 矯正治療と診療補助の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 矯正治療に関する患者指導 2) 口腔筋機能療法（MFT）の診療補助 2. 矯正治療の例と診療補助の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) 矯正装置の装着 2) 矯正装置の撤去 	
42～ 43	小児歯科治療時の診療補助	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の診療と診療補助の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療時の配慮 2) 診療時のポジションとフォーハンド 3) 小児の対応法 4) 局所麻酔 5) ラバーダム防湿 6) エックス線検査 2. 小児の治療の例と診療補助の流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) 保存修復 2) 外傷 	
44	各治療時の診療補助	まとめ	
45	確認テスト	各治療時の診療補助	
教科書・教材		評価基準	評価率
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版）		出席率	5.0%
最新歯科衛生士教本 歯科材料（医歯薬出版）		実習・実技評価	25.0%
最新歯科衛生士教本 歯科機器（医歯薬出版）		期末試験	70.0%

作成者: 四宮 直子

授業形態

実習

担当教員

四宮 直子

やチーム医療の場

隔壁法実習

--

の流れ

--

システム

--

--

その他

--

科目名		学科/学年	年度/時期	
歯科予防処置論Ⅱ		歯科衛生士学科/2年	2020/通年	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	45回	3単位(90時間)	必須	井

授業の概要

う蝕予防・歯周病予防を予防し、人々の健康を維持・増進させるために専門的な知識を身に付ける。
相互実習を通じて、患者に対する態度・身だしなみ・言葉遣いなどの基本マナーを身に付ける。

授業終了時の到達目標

- 1) 超音波・エアスケーラーについての基礎知識、技術を身につける
- 2) キュレットタイプスケーラーの基礎知識、適切な操作方法を身につける
- 3) 小窩裂溝充填(フィッシャーシーラント)についての術式を理解する
- 4) 歯面研磨についての知識・技術を身につける

実務経験有無	実務経験内容
有	【実務経験有】井口和美 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯周病技術・知識・態度を学生へ教授する

時間外に必要な学修

【準備学習】
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。

回	テーマ	内容
1	歯面清掃用器具・器材	1) 超音波と音波とは 2) エアフロー 2) 超音波スケーラー・エアスケーラー
2	超音波スケーラーの基本操作 * ファントム	1) インサートチップの当て方 操作角 2) 持ち方と固定点 3) 操作幅、動か
3	超音波スケーラーの基本操作 * ファントム	1) ファントムの高さ・マキシラアング 2) ミラー操作 3) ポジション
4~5	超音波スケーラー (下顎) *相互実習	1) 赤染め後、沈着部の除去 2) 患者への配慮 3) バキューム操作
6~7	超音波スケーラー (上顎) *相互実習	1) 赤染め後、沈着部の除去 2) 患者への配慮 3) バキューム操作
8	歯面研磨 基礎	1) 歯面研磨 PTC PMTCとは 2) 歯面研磨 目的・手順・使用器具
9~10	歯面研磨 操作 *ファントム	1) 歯面への当て方 操作角度 2) 把持法 固定点
11~12	歯面研磨 (相互実習)	1) 操作手順 2) 歯面研磨剤の留意点
13~14	手用スケーラーの基礎知識	1) 種類、使用部位、操作方法の違いを 2) キュレットスケーラーの構造と名称
15~16	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ *ファントム	3 3番歯~4 3番歯(唇側・舌側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・
17~18	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ *ファントム	1 3番歯~2 3番歯(唇側・口蓋側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・
19	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ *ファントム	4 4番歯~4 7番歯(頬側・舌側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・

20	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ *ファントム	3 4 番歯～3 7 番歯 (頬側・舌側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・	
21	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ *ファントム	1 4 番歯～1 7 番歯 (頬側・口蓋側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・	
22	キュレットスケーラー操作 グレーシータイプ *ファントム	2 4 番歯～2 7 番歯 (頬側・口蓋側) 1) ポジショニング 2) 操作角度・	
23～ 24	キュレットスケーラー 試験 (上 顎) グレーシータイプ *ファントム	1) スケーラー番号 2) ポジション 4) 固定 5) 側方圧 6) 操作幅・角	
25～ 26	キュレットスケーラー 試験 (下 顎) グレーシータイプ *ファントム	1) スケーラー番号 2) ポジション 4) 固定 5) 側方圧 6) 操作幅・角	
27～ 28	シャープニング	1) 意義と目的 2) 使用器材 3) 砥石の種類 4) 潤滑剤 (オイル)	
29～ 30	シャープニング (実習)	1) 操作方法 2) グレーシー # 5・6 # 7・8	
31～ 32	シャープニング (実習)	1) 操作方法 2) グレーシー # 11・12 # 13	
33～ 34	シャープニング (実技試験)	1) シャープニング角度 2) 把持法 3) ストローク幅	
35	歯周組織 (付着歯肉幅)	1) 付着歯肉幅とは・付着の意義・欧米 2) 付着歯肉幅の測定方法	
36～ 37	付着歯肉幅測定実習	1) 使用薬品・器具 2) 測定方法 3	
38	う蝕予防処置 (小窩裂溝填塞) *模型実習	1) 手順について1 年次復習 2) 使用器具 器材	
39～ 40	う蝕予防処置 (小窩裂溝填塞) *模型実習	1) 手順 防湿方法 (簡易・ラバーダム) 2) 模型の小窩裂溝填塞法	
41～ 42	総合相互実習	1) フロッピング 2) グレーシー操作実習	
43～ 44	総合相互実習	1) 超音波スケーラー操作実習 2) 歯面研磨実習	
45	まとめと期末試験	まとめと確認テスト	
教科書・教材		評価基準	評価率
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論		出席率 授業態度 期末試験 確認テスト	10.0% 10.0% 60.0% 20.0%

作成者:井口 和美

授業形態

実習

担当教員

井口 和美

載・技術を習得す
身につける。

予防、う蝕予防の

とは
の種類と機能

度
し方

ル

研磨剤

理解する

操作幅・圧

操作幅・圧

操作幅・圧

操作幅・圧

操作幅・圧

操作幅・圧

3) マキシラ
度

3) マキシラ
度

・ 1 4

と日本人の違い

) 記録方法

方湿)

その他

【準備学習】
相互実習・
シャープニング実
習前には、基本操
作について復習し
理解をしておくこ

科目名		学科/学年	年度/時期	
医療事務(歯科)		歯科衛生士学科/2年	2020/通年	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	2単位(30時間)	必須	武

授 業 の 概 要

1	保険制度の概要 被保険者証の概要	保険の概念・医療保険制度・長寿医療制度の概要・診療報酬
2	受付から請求まで	診療前後の作業、請求事務、レセプトの審査・支払い
3	公費負担医療制度	生活保護法
4	点数算定の基本	基本診療料(初診料・再診料) 特掲診療料(医学管理・在宅医療・投薬・検査 および手術・麻酔)
5	歯冠修復	歯冠修復の方法・手順・算定の原則 歯冠修復の種類と算定方法
6	傷病による治療と算定	硬組織疾患(う蝕症・象牙質知覚過敏症・その他) 歯髄疾患(歯髄炎) 歯周組織疾患(歯根膜炎) 軟組織疾患(口内炎・口角びらん・褥創性潰瘍) 歯周疾患(歯肉炎・歯周炎) その他(ドライソケット・歯肉膿瘍・歯槽膿瘍・歯 鋭縁・小帯異常)
7	欠損補綴	ブリッジ・有床義歯
8	修理、再装着、未来院請求 院請求	床適合・歯冠修復物およびブリッジの脱落・再 院請求

授業終了時の到達目標

1) 保険制度の理解
2) 受付業務
3) 点数採点の基本の理解
4) 特掲診療の理解
5) 算定実技の理解

実務経験有無	実務経験内容
有	【武田和代】：歯科衛生士として11年の勤務経験。これまでの臨床経 のかかわりや、歯科医院でのチーム医療のありかたを の立場から指導する。

時間外に必要な学修

【準備学習】
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。

回	テ ー マ	内 容
1	保険の概念	1 保険料とは 2 保険者証 3 診療報酬とは 4 被保険者 5 被扶養者 6 保険者 7 医療保険の種類
2	保険制度の概要	長寿医療制度の概要 診療報酬
3	保険者番号と被保険者証の記号	・医療保険 ・国民健康保険 ・長寿保険

4	受付業務	診療前の作業 カルテ作成 診療後の業務	
5	実技問題	練習問題No. 1 ①即日充填形成とは ②X線写真 ③アマルガム充填 ④窩洞の形態について (M. D. L. B) 複雑、単純について	
6	点数算定の基本 実技問題	基本診療料と特掲診療料 基本診療料 特掲診療料 在宅医療 実技問題No1～No2 解答解説	
7	練習問題 吸入鎮静法	No3 実技問題 ①生切とは ②失切とは ③生PZ ④複合レジン冠 吸入鎮静法 ①薬価の計算方法 ②笑気ガス、酸素計算法	
8	練習問題 確認テスト	実技問題No4 クラウン・ブリッジ維持管理料の届出を 機関の場合	
9	確認テストの解答・解説 レセプト作成	学科・実技 ・レセプト作成 ・生年月日 ・保険者番号	
10	実技問題	実技問題No 2 4～No 2 7 解答解説	
11	実技問題	実技問題No 2 8～No 3 0 解答解説	
12	実技問題	実技問題No 3 1～No 3 3 解答解説	
13	実技問題	実技問題 解答解説	
14	実技問題	実技問題 解答解説	
15	医療事務技能認定試験（歯科）	過去問題	
教科書・教材		評価基準	評価率
歯科医療事務テキスト 医療事務の実際（基礎編・応用編） 学習サポートブック 練習問題集		出席率 授業態度 期末試験	30.0% 10.0% 60.0%

作成者:武田 和代

授業形態

講義

担当教員

武田 和代

報酬・保険者番号と

・画像診断・処置お

習歯周囲炎・歯槽骨

耳装着・修理・未来

験における患者と
歯科衛生士として

--

--

--

--

出していない医療

--

--

--

--

--

--

--

その他
【準備学習】 次回の授業内容を 踏まえてテキスト を用いて予習する

科目名		学科/学年	年度/時期	
生物学		歯科衛生士学科/2年	2020/後期	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	8回	1単位(16時間)	必須	大

授業の概要

歯科学は生命科学の重要な一員であるため、生物学は歯科衛生士を志す者には重要な一般教養としての生物学を学ぶとともに、国家試験の生理学分野の内容も含めていく。

授業終了時の到達目標

一般教養としての生物学について基礎知識が身につく。
国家試験科目の生理学の内容と重なっている部分を解けるようになる。

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

【準備学習】

次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。

回	テーマ	内容
1	生物学の授業進行について 学生の自己紹介	1年間で学ぶことについて 生命をつくっている物質について
2	I-2章 生命の誕生 I-3章 生命の変換	どのようにして生物は生まれたか 生物の進化について
3	II-1章 生物は細胞からできている	細胞小器官とその活動
4	II-2章 細胞の一生と個体の成り立ち	細胞と組織・器官
5	III-1章 生殖によって子孫をつくる III-2章 遺伝と遺伝子	生殖と減数分裂 遺伝の法則とDNA
6	III-2章 遺伝と遺伝子 III-3章 発生して体をつくる	遺伝の法則とDNA 発生の過程と仕組み
7	IV-1章 刺激の受容と反応 IV-2章 内部環境を保つ仕組み	神経と刺激の伝達 体液・ホルモン・自律神経
8	IV-3章 動物の行動 まとめ	本能と習得的行動 学んできたことの総まとめ
教科書・教材		評価基準
最新歯科衛生士教本 生物学		期末試験
オリジナルプリント		評価率 100.0%



作成者:大南 朋子

授業形態

講義

担当教員

:大南 朋子

は教養科目となる。
く。

その他

・主体的に授業に
参加し学習する。

【準備学習】

次回の授業内容を
踏まえて教科書を

科目名		学科/学年	年度/時期	
心理学		歯科衛生士学科/2年	2020/前期	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	8回	1単位(16時間)	必須	佐

授業の概要

心理学は、人間の行動を科学的に研究する学問です。例えば、なぜやる気がでないのメカニズムについて調べたりします。
ここでは、様々な心理学の基礎的知識を取り上げ、内容を理解し、それらの意味に気づく。

授業終了時の到達目標

1. 心理学の知識を理解し、基礎的な理論の説明をすることができる。
2. 心理学の知識や体験が、自己理解や心理学的援助に役立てることができる。

実務経験有無	実務経験内容

時間外に必要な学修

【準備学習】

次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。

回	テーマ	内容
1	心理学とは、知覚と感覚	1)心理学という学問 2)心理学の歴史 4)人間の感覚
2	対人認知、学習と記憶	1)対人認知 2)学習 3)記憶
3	ストレス、欲求と動機づけ	1)ストレス 2)フラストレーション 動機づけ
4	発達、パーソナリティ	1)発達とは 2)発達段階と発達理論 ティとは 4)パーソナリティのとらえ
5	知能、集団	1)知能 2)集団
6	メンタルヘルス、カウンセリング	1)メンタルヘルス 2)ストレス 3) 4)ロジャースの理論
7	コミュニケーション	1)コミュニケーションスキル 2)傾
8	まとめと期末試験	1)これまでの授業の振り返り 2)期

教科書・教材	評価基準	評価率
自作プリント	出席率 授業態度 課題・レポート 期末試験	20.0% 10.0% 20.0% 50.0%

作成者:佐野 智里

授業形態

講義

担当教員

:野 智里

りだろうかという心

ついて考えていきま

3)人間の知覚

3) 欲求 4)

3) パーソナリ
方

) カウンセリング

聴 3) 演習

末試験

その他

科目名		学科/学年	年度/時期	
衛生行政・社会福祉		歯科衛生士学科/2年	2020/前期	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	8回	1単位(16時間)	必須	市
授業の概要				
衛生行政の目的と関連各法の内容を理解する。 社会福祉関連行政の組織を理解し、生活保護、児童福祉、障害者福祉高齢者福祉の社会保険の実務として診療報酬の算定を理解する。				
授業終了時の到達目標				
歯科衛生士として、現場に於いて必要な知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		医療機関にて医療事務職及びソーシャルワーク歴11年の勤務経験を活社 社の施策内容と医療機関のあり方を学生に伝える。		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内容		
1~2	強制保険と地域保健法	医療・年金・雇用・介護・労災の各保険法の概要を学ぶ。 各保健制度の復習および理解度確認テスト 各保険制度の復習と確認 社会保険及び社会福祉の復習		
3	医師法、歯科医師法	医師、歯科医師免許及びその業務を理解		
4	歯科衛生士法	積極要件及び消極的要件を理解する。 通常業務とその義務について。		
5	歯科技工士、保健師助産師看護師	資格取得及び業務内容を理解する。		
6	医療施設の定義、薬事法、薬剤師法	病院と診療所の違いを理解する。薬品保		
7	医療保険制度、年金制度、介護保険の法規、生活保護法及び児童福祉法、障害者福祉法及び高齢者福祉、保険医療の実務(保険診療と自由診療)	保険制度の目的とその内容を理解する。		
8	期末テスト			
教科書・教材		評価基準	評価率	
歯科衛生士のための衛生行政、社会福祉、社会保険		出席率 授業態度 期末試験	10.0% 10.0% 80.0%	

作成者:市橋 栄治

授業形態

講義

担当教員

市橋 栄治

制度を理解する。

かし、医療及び福

制度及び地域保健

トの実施

する。

管について

その他

【準備学習】
次回の授業内容を
踏まえてテキスト
を用いて予習す
る。

科目名		学科/学年	年度/時期	
外国語		歯科衛生士学科/2年	2020/通年	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西
授業の概要				
1. 基本的日常会話能力(リスニング、スピーキング)の構成 2. 歯科衛生士業務の際の英会話文を理解し習得させる 3. 基礎的な文中の文法を理解させる。 4. 西洋諸国の多様な文化、風習、マナーの相違などへの理解を深める 5. ペアによる英会話練習により実践力を向上させる 6. 歯科衛生士にとって興味深い読み物を英語で読んでみる				
授業終了時の到達目標				
1. 英語を話すことに対する抵抗感をなくする 2. 基本会話文を習得するとともに外国への関心を高め、理解を深める 3. 歯科衛生士業務に必要な基礎英語力を習得する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		小学校、高等学校、予備校で英語講師経験あり。		
時間外に必要な学修				
テキストの予習、復習。学習した単語を覚える。テキストの音読練習。				
回	テーマ		内容	
1	基本の英会話1	歯科英語テキスト1	プリントを用いた基本の英会話学習。テキストでの歯科医院における電話予約の学習語の読み物。	
2	基本の英会話2	歯科英語テキスト2	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って、英語での薬のり学習、練習。科学的英語の読み物。	
3	基本の英会話3	歯科英語テキスト3	回の内容の小テスト。プリントを用いた習。テキストに沿って、英語での緊急予練習。科学的英語の読み物。	
4	基本の英会話4	歯科英語テキスト4	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語での国民健康明、練習。科学的英語の読み物。	
5	基本の英会話5	歯科英語テキスト5	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語で患者さんに練習。科学的英語の読み物。	
6	基本の英会話6	歯科英語テキスト6	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語での患者さんルヒストリーの聞き方について学習、練習読み物。	
7	基本の英会話7	歯科英語テキスト7	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語での歯周病に習。科学的英語の読み物。	
8	基本の英会話8	歯科英語テキスト8	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語での妊娠中の腔衛生について学習、練習。科学的英語	

9	基本の英会話9 歯科英語テキスト9	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語での定期的なリーニングの重要性の説明の学習、練習み物。
10	基本の英会話10 歯科英語テキスト10	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語でのインフォの学習、練習。科学的英語の読み物。
11	基本の英会話11 歯科英語テキスト11	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語でのシーラン練習。科学的英語の読み物。
12	基本の英会話12 歯科英語テキスト12	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語でのフッ素ト明について学習、練習。科学的英語の読
13	基本の英会話13 歯科英語テキスト13	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語での子どもに導について学習、練習。科学的英語の読
14	基本の英会話14 歯科英語テキスト14, 15	前回の内容の小テスト。プリントを用い習。テキストに沿って英語での大人に対して学習、練習。科学的英語の読み
15	歯科英語テキスト16 After treatment	前回の内容の小テスト。テキストに沿った後の患者指導について学習、練習。ま
教科書・教材		評価基準
最新歯科衛生士教本 歯科英語 SIDE by SIDE longman出版		出席率 50.0% 授業態度 20.0% 期末試験 30.0%

作成者: 西良 美智子

授業形態

講義

担当教員

良 美智子

キストに沿って英
、練習。科学的英

た基本の英会話学
クエストについて

基本の英会話学
約について学習、

た基本の英会話学
保険についての説

た基本の英会話学
症状を聞く学習、

た基本の英会話学
に対してメディカ
習。科学的英語の

た基本の英会話学
ついて学習、練

た基本の英会話学
歯科治療および口
の読み物。

た基本の英会話学
歯科医院でのク
。科学的英語の読

た基本の英会話学
ームドコンセント

た基本の英会話学
トの説明の学習、

た基本の英会話学
リートメントの説
み物。

た基本の英会話学
対する歯みがき指
み物。

た基本の英会話学
する歯みがき指導
物。

て英語での治療終
とめ小テスト。

その他

レポート提出で成
績に加味すること
もあり。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
パソコン実習(Excel)		歯科衛生士学科/2年	2020/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	23回	1単位(46時間)	必須	高橋 美香
授業の概要				
1. 情報技術の基礎となるコンピュータの知識ならびに技法を習得する。 2. 表計算ソフトExcelの操作方法を理解する。 3. MOS Excelの取得を目指す				
授業終了時の到達目標				
1. MOS Excel2016の合格 2. Excelを用いた効率的な文書の作成と、将来において仕事に生かすことのできるスキルの習得				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
【準備学習】				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	第1章 ワークシートやブックの作成と管理	1. ワークシートやブックを作成 2. ワークシートやブック内の移動 3. ワークシートの名前の管理 4. シート見出し 5. 行・列の挿入と削除 6. テーマの設定		
2	第1章 ワークシートやブックの作成と管理	1. ワークシートやブックを作成 2. ワークシートやブック内の移動 3. ワークシートの名前の管理 4. シート見出し 5. 行・列の挿入と削除 6. テーマの設定		
3	第1章 ワークシートやブックの作成と管理	1. ワークシートの分割と表示・非表示 2. クイックアクセスツールバー 3. リボンのカスタマイズ 4. ワークシートの印刷と保存		
4	第2章 セルやセル範囲の作成	1. コピー、移動、貼り付けのオプション 2. 書式のコピー・貼り付け 3. 置換 4. セルの書式設定		
5	出題範囲2 セルやセル範囲のデータの管理	・オートフィル、フラッシュフィル ・データの移動・コピー ・リンク貼り付け ・セルの書式設定		
6	出題範囲2 セルやセル範囲のデータの管理	・数式の書式の適用(通貨表示、パーセントスタイル、表示桁数) ・セルのスタイルの適用 ・書式のコピー・貼り付け ・スパークライン、アウトラインの挿入 ・条件付き書式の設定 ・カラースケール、データバー、アイコンセットの設定		

7	出題範囲3 テーブルの作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーブルを作成、管理する ・ テーブルのスタイルと設定オプションを管理する ・ テーブルのレコードを抽出する、並べ替える 		
8	前期末テスト	前期末テスト（出題範囲 1～3）		
9	出題範囲4 数式や関数を使用した演算の実行	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演算記号 2. 相対参照と絶対参照 		
10	出題範囲4 数式や関数を使用した演算の実行			
11	出題範囲5 グラフやオブジェクトの作成			
12	出題範囲5 グラフやオブジェクトの作成	オブジェクトの挿入、書式設定		
13	出題範囲 1～5	出題範囲 1～5		
14	模擬試験問題 1	模擬試験問題 1		
15	模擬試験問題 1	模擬試験問題 1		
16	模擬試験問題 1	模擬試験問題 1 確認テスト		
17	模擬試験問題 2	模擬試験問題 2		
18	模擬試験問題 2	模擬試験問題 2		
19	模擬試験問題 2	模擬試験問題 2 テスト		
20	模擬試験問題 3	模擬試験問題 3		
21	模擬試験問題 3	模擬試験問題 3 テスト		
22	模擬試験問題 4	模擬試験問題 4		
23	期末試験（模擬試験問題 4）	模擬試験問題 4		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 2016 対策テキスト&問題集（FOM出版）		期末試験 実習・実技評価 授業態度	50.0% 40.0% 10.0%	【準備学習】次回の授業内容を踏まえて、テキスト等を用いて予習を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	
社会人基礎講座 I		歯科衛生士学科/2年	2020/後期	
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	8回	1単位(16時間)	必須	藤
授業の概要				
1. 社会人として求められる心得について学ぶ(手帳の使い方、読書術、文章術、ロジカルシンキング) 2. 基本的なビジネスマナーについて学ぶ(電話対応、訪問のマナー) 3. 就職活動の準備(自己分析、企業研究、履歴書等書類作成、面接対策)				
授業終了時の到達目標				
1. 3KAN教育により企業が求める人材を育成する 2. 基礎学力、専門知識を将来社会において発揮することができるための汎用的能力の向上 3. 目標を設定し管理することによって、自己成長を実感させ、将来設計ができるようになる				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
【準備学習】				
次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習する。				
回	テーマ	内 容		
1	就職に向けての動機づけ・心構え	動機づけ 身だしなみ講座		
2	自己を振り返り、自分の強みを見つける	自己分析(過去～未来)		
3	自己を振り返り、自分の強みを見つける	自己PR作成		
4	業種・職種の理解	企業研究		
5	答えのない社会を生きていくための「自分で答えを考える」	ロジカルシンキング		
6	文章を読むことに慣れる	読書が楽しくなる読書術(1)		
7	思いやり、気づき、気配りが実践できる能力及び社会人として必要不可欠なマナーの習得	ホスピタリティマインド 社会人としての心得		
8	面接書類準備	50問50答、自己PR、求職票		
教科書・教材		評価基準	評価率	
就職の手引き		出席率	100.0%	

作成者: 藤本 希実子
授業形態

講義

担当教員

本 希実子

ブカルシンキング)

り育成
うになる

その他

【準備学習】次回の授業内容を踏まえて、テキスト等を用いて予習を行う